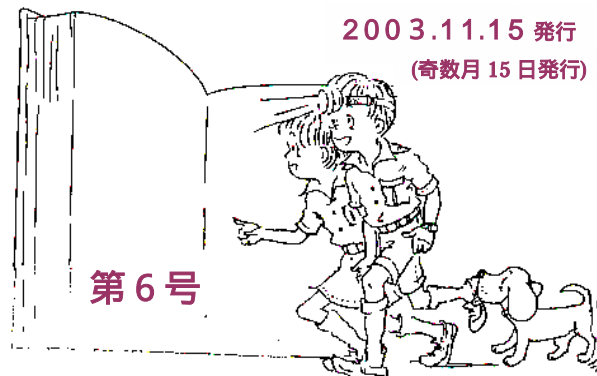


にのみやまちとしょかん 図書館だより

開館3周年記念号



特集

開館3周年を迎えて



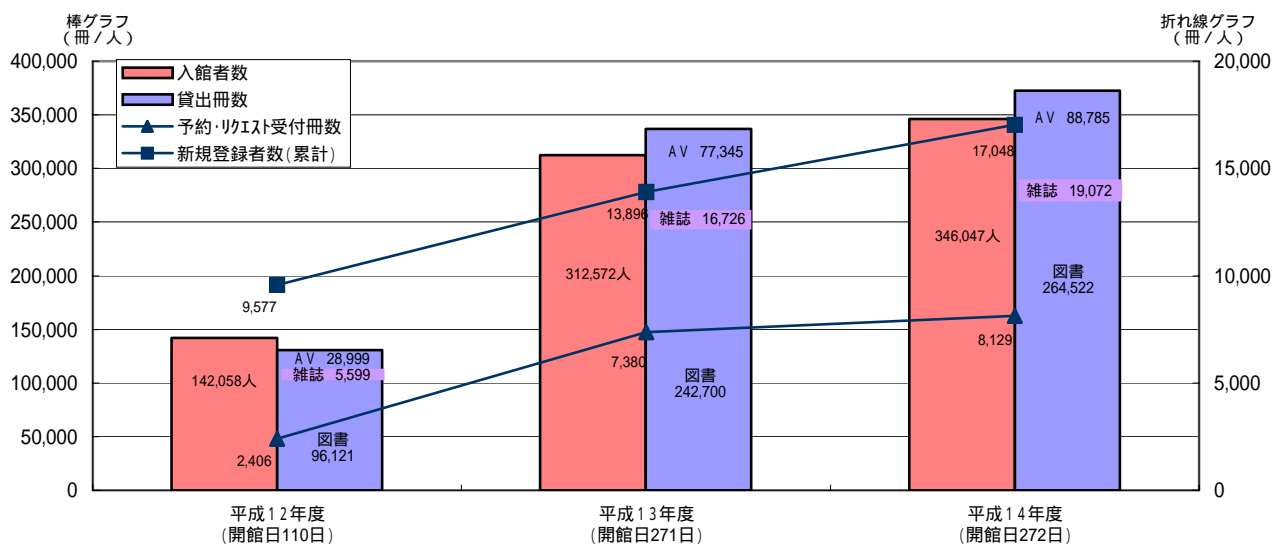
9月のおはなし会の様子

秋は懐の深い季節。紅葉、食欲、運動、そして読書。何をすることも天候、気温、湿度、昼夜のバランスが人間生活に非常に良い影響を与え、過ごしやすい季節です。“読書の秋”に例えれば、「ラディアン」内の図書館で秋の一日を好きな書物の中で過ごすのも楽しいことと思います。

二宮町の新図書館も本年11月3日をもって開館3周年を迎える事ができました。開館以来、駐車場設備はもとより施設立地条件、そして何よりも14万4千冊の書籍と、ゆったりとした空間、各コーナーの設置等、常に利用者の立場に立って関係者一丸となってその運営に携わって参りました。21世紀も3年が過ぎようとする中で、インターネット等ITシステム社会は、今後益々我々の生活の中に入りその存在は不可欠となって行くと思われまます。図書館においても、5年後、10年後にその時代において、常に理想的な“図書館”である為にどうあるべきかを考え、努力していきたいと思っております。図書館の今後のスムーズな運営と発展の為、利用者各位の忌憚のないご意見、ご要望をいつでもお待ちしております。

館長 池田茂男

開館3周年を迎えて～利用状況の推移～



開館してから平成15年3月末までに、図書館に足を運んでくれた人は、述べ80万人を突破しました。

平成14年度からは、開館時間を夜7時まで延長し、利用時間の増加を図りました。その利用の伸びが、グラフに現れています。また、町民で利用カードをお持ちの方も、4割近くになってきています。

毎日利用される施設だからこそ、また来よう、と思っていただける図書館にしていきたいと、日々考え運営しています。

展示 テーブル

『好敵手』

(風野真知雄著 / 新人物往来社 / カゼ)

明治43年(西暦1910年)、日本人による

初飛行を賭けて、徳川好敏と、

そのライバル日野熊蔵は

しのぎを削っていた…。日本航空界の黎明期と、フランスと日本で描かれる人間模様、そして、男たちの大空への思いを描いた爽やかな物語。

画像なし

『飛行機物語』

(鈴木真二著 / 中央公論新社 / 538.6ス)

今年は、ライト兄弟が人類初の動力飛行に成功してから、ちょうど100年目。今、私たちの生活に欠く事の出来ない飛行機は、どのように生まれて、いかなる発展を遂げてきたのか？航空工学の視点を織り交ぜながら、19世紀から現在に至るまでの道のりを追います。

書庫の本

『三たびの海峡』

(帯木蓬生著 / 新潮社 / ハハ)

舞台は第2次大戦中の日本と朝鮮半島。強制連行により、凄まじい人生をたどった主人公自身の終末を前にし、その過去に対する決着のつけ方を描くことで、全ての「人間」への問いかけをしている作品です。

心の真ん中にせまる勢いがあります。

画像なし

『ドノヴァンの脳髄』

(ハヤカワ・SFシリーズ 3002)

(カート・シオダク著 中田耕治訳 / 早川書房 / S933シオ)

若い脳医学者コーリィは、実験用の脳髄を手に入れ、ついにその人口培養に成功するが…。

ハヤカワSFミステリーシリーズの1冊です。このシリーズの昭和40年から50年に出版されたものが、約200冊蔵書としてあります。SFの世界をのぞいてみませんか？

AV 資料

<CD>

『オルゴール・リラクシング ハート』

(日本コロムビア / 260オ2)

ショパンのプレリュードから、タイタニックのテーマまで、幅広いスタンダードの名曲がオルゴールの“癒しの音色”となったCDです。いろいろな音が溢れている今、疲れた心に染み込むようにやすらぐ“私の音色”を探してみませんか？

『シルクロード・ジャーニー - 出逢い - 』

(ヨーヨー・マ&ザ・シルクロード・アンサンブル演奏 / ソニーミュージックジャパン / 180ヨ)

太古シルクロードにより出逢い、各々の土地の風土と融合しあった東と西の文化。その現在を音楽によって再現したCDです。中国の伝承音楽を西洋楽器が中心に奏で、支えるリズムを印度の打楽器が刻む。そういった組み合わせの演奏が、不思議と違和感なく心地よく響きます。

<DVD>

『ナショナル・ジオグラフィック(全85巻)』

(東芝 / 290ナ)

動物たちの豊かな世界(1~32巻)、知と未知への旅(33~62巻)、地球の脈動と生命のドラマ(63~85巻)の、大きく3つのテーマからなります。貴重な映像の数々は、自然の厳しさ豊かさ、地球の歴史、動物たちの営みを見事にとらえ、そこに生きる人間のあり方を改めて考えさせられるシリーズです。同名の雑誌とともに楽しみ下さい。

<ビデオ>

『開運なんでも鑑定団 - 史上最強の鑑定士軍団 - (全5巻)』

(ネクサス / 049カ)

1995年、鑑定ブームを巻き起こした大ヒット番組「開運！なんでも鑑定団」で、TVで語られることのなかったプロの極意が、ついにビデオで明かされます。第1巻「書画鑑定団」では、真贋の見極め方から表装の見方まで、書画鑑定のすべてを伝授。第2巻「西洋アンティーク鑑定団」、第3巻「ブリキのおもちゃ鑑定団」、第4巻「やきもの鑑定団」、第5巻「古民具鑑定団」の全5巻。

画像なし

絵本

親子で楽しむ絵本

『オオカミのひみつ』

(きむらゆういち・ぶん 田島征三・え / 偕成社 / Eタシ)

こわいものしらずのオオカミにも、ちょっとばかりかくしておきたいひみつがあるんです…。迫力ある画が話をさらに楽しくしています。

画像なし

『やまねのネンネ』

(どいかや作・絵 / BL出版 / Eドイ)

冬眠中のやまねのネンネは、ねぼけて木のうろから落っこちて、眠ったままいるんな所についてしまいます。そして夢の中でも冒険をしているのですが…寒い冬に温まりながら読みたい絵本です。

『こいぬのうんち』

(クオン・ジョンセン文 チョン・スンガク絵
ピョン・キジャ訳 / 平凡社 / Eチヨ)

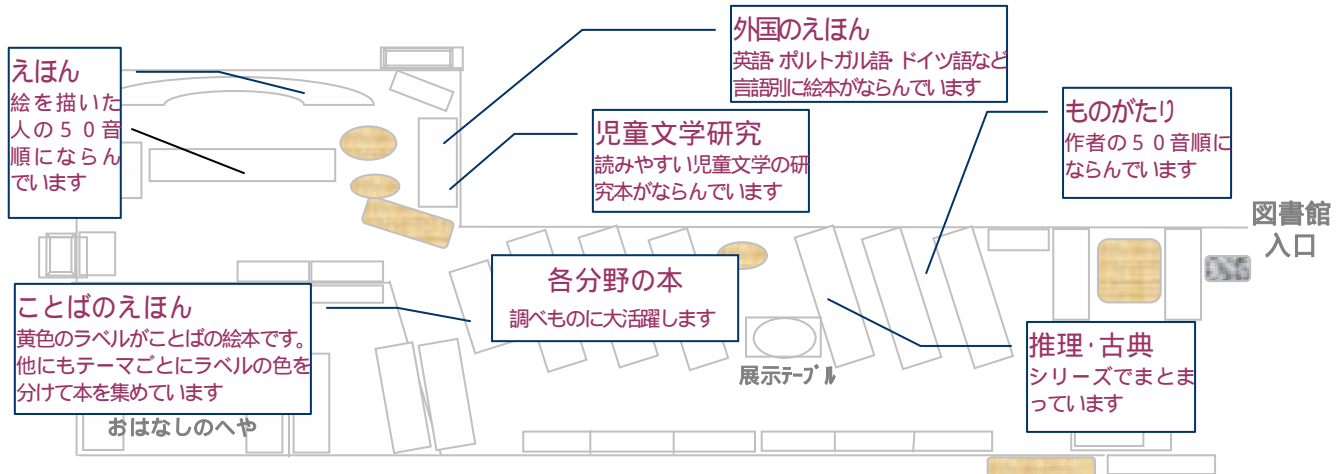
韓国の絵本。誰もが生きる意味をもっているのだということを教えてくれます。表情豊かな絵とともに心に沁みわたる作品です。

シリーズ 図書館発見 ~ 子どもの本コーナー



ラディアン正面入口に入って右側に、モールに沿ってちょっと細長い子どもの本コーナーがあります。ガラス越しに、子ども達が本に見入る姿や親子で楽しそうに本を選ぶ姿が目にとまります。図書館の開架の本の1/4、約2万冊がこのコーナーに置かれています。今、本の森の入口にいる子ども達が、いかに楽しく本の世界へ入ってゆけるか、その道案内ができればいいなと考えています。

図書館入口から、ものがたりの本、図書館だより第3号の特集で紹介した展示テーブルをはさんで、いろいろな分野の本、奥のえほんのコーナーへと続きます



子どもの本コーナーのあちこちにいる、物語の主人公達をご存知ですか？壁のタペストリーであったり、書架の上の人形であったり…。これは、図書館をたのしむ会の方たちの手作りの作品です。どの本の主人公なのか探し当てるのも楽しいですね。(子どもたちはよく知っていますよ！)書架の上の木製サインもたのしむ会の手作りです。

奥には、くつをぬいでゆっくり本を読んであげられる「おはなしのへや」があります。子どもたちは思い思いに絵本を広げて楽しんでいます。ここでは毎月、にのみやおはなし会によるおはなし会(p1写真)があります。子どもの本コーナーですが、いろいろな年齢の方にも楽しんで頂けることと思います。



二宮ゆかりの人物.....^{くぼたうつぼ}窪田空穂と昭和初期の二宮.....



「この二の宮は、東京駅から一時間半、大磯と国府津との間にある町である。私のゐる家は駅から五分ほどの所であるが、初めて来た時には、どうしてこんな所にかうした静かな所があるのだらうと思つた。改修前の旧東海道を横へはひると、狭い路を挟んで、萱屋と空き地と、トタン屋根の低い家とが入りまじつて、それを劃つて一帯の老松の松林が、西から東に尽くる所なく続いてゐる。振り返ると数町の彼方には小高い丘陵が起伏して、それを越してやや遠く大山、丹沢山などが物々しい峰を霞ませてゐる。(中略)ここの人は見受けたところでは、みんな実によく体を動かしてゐる。黙つていて、しかし穏やかな顔をして、六十を越した年寄も、十歳前後の子供も、一しよになつてそれぞれみんな働いてゐる。」
空穂は「二の宮町の海岸 - 通信として -」(1)の中で二宮の印象をこのように描写しています。

^{くぼたうつぼ}窪田空穂(1877~1967)は長野県和田村(現松本市)に生まれ、歌人・国文学者・早稲田大学教授として多くの業績を残しました。二宮には源氏物語口語訳のため、昭和十一年七月から二ヶ月程家族を伴って訪れ、^{しもちよう}下町近辺に滞在しました。また、短歌「相模二の宮の海岸」(2)や、往来や隣家から聞こえてくる地元の人々の声を拾った「ことば - 相模二の宮の言葉 -」(1)などの作品も後に著されました。この「ことば」では特に女性のことばに興味を示し、文学者の目で他地域との分析をしています。

空穂は七十年にわたり歌人として「まひる野」(2)をはじめ多くの歌集を残しました。又古典文学の研究にもすぐれ、芸術院会員・文化功労者に選ばれました。平成五年にはこれらの業績をたたえ生地に「窪田空穂記念館」が開館され、歌集や著作原稿などが年代順で紹介されその魅力が伝えられています。

1『窪田空穂全集6』角川書店

2『窪田空穂歌集』/岩波文庫/911.1ク



利用者の声

今号では開館3周年を記念して、新図書館を作り上げる過程から今日まで、町民として協力していただいたグループの方から原稿をお寄せいただきました。

「図書館とともに」

図書館をたのしむ会・二宮

待ちに待っていた新しい二宮町図書館が開館して3年が経ちました。「町民にとって使いやすい新しい図書館」と、長い間願っていたことが現実となり、嬉しい限りです。多くの人が、それぞれの必要性に応じて様々な利用の仕方をし、町民の中に図書館がしっかり根付いてきていると思います。

職員の方は、図書館運営にあたり、専門性の高い仕事をし、町民の要望に応えようと尽力してくれています。

「子どもたちを育て、暮らしを彩り、生活や仕事を支え、地球の未来のための知識や情報の宝庫である図書館」を、私たちは町の大きな財産として、とても大切に思っています。

『図書館をたのしむ会・二宮』は、開館前から町との話し合いをしてきましたが、開館してからも、図書館を応援し、図書館を楽しむ活動をしています。

< 活動内容 >

図書館長・司書職員との話し合い

「くどうなおこ講演会」(02.2)、「ときどき自然探検隊・ひろって考えるドングリのふしぎ」(03.10)などの講演会や企画

館内に四季折々の自然な草花や風物を使って図書館を演出

絵本や児童書を題材に手作りのぬいぐるみやタペストリーを子どもの本コーナーに寄贈・展示

県内の図書館友の会との交流・連携・・・など (現在会員76名)

このような活動が、多くの人が図書館に親しむことや、図書館の新たな発見につながるいいと思っています。これからも町民の働きかけや応援によって、二宮町図書館が「住民の望む図書館」になることを願っています。

お知らせ

特別館内整理(蔵書点検)が終了しました

休館中はご不便をおかけしました。ご協力ありがとうございました。

年末年始休館のお知らせ

12月28日(日)～1月5日(月) 返却ポストへの返却はご遠慮ください。

行事

くわしくはお問い合わせください

ちいちゃいおはなし会

11月19日(水)
12月10日(水)
1月21日(水)

おまけのおはなし会

おはなし会とおりがみあそび

11月15日(土)
12月20日(土)
1月17日(土)

わらべうたであそぼう!

11月21日(金)
12月19日(金)
1月16日(金)

雑誌のリサイクル

コーナー

11月23日(日)
12月21日(日)
1月25日(日)

展示テーマ

10月

一般 / 『笑い・ユーモアの本』

児童 / 『犬大好き集まれ!猫大好き集まれ!』

AV / 『耳でたのしむ「読書の秋」』

11月

一般 / 『大空へ～ライト兄弟初飛行から100年』

児童 / 『ぼくの夢 わたしの夢
大きくなったら何になりたい?』

編集後記

今回は開館3周年記念号ということで、いつもとちょっと違う形でお送りしました。資料の紹介も多めだったので、興味のあるものがあつたら是非実際に手にとってみてくださいね。図書館の資料は、皆さんに利用していただく日を待っています。